

報道関係者と民博との懇談会

話題一覧

2024 年 6 月 20 日(木)15:30～17:00

懇談会

1. 挨拶

— 吉田 憲司（館長） —

2. ニュースリリース

●みんなくの最新情報と今後3カ月の行事をご案内いたします。

— 山中 由里子（議長） —

3. みんなく創設 50 周年記念映画会

[詳しくはこちら](#)

『TRIO（トリオ）』

ダウン症のある息子を周囲の差別や偏見から守るため、母は人里離れた場所で暮らすことを選択します。モンゴルの雄大な自然のなかで、2人の時間は静かに流れていくのだが……。世界各地の映画祭で多くの賞を獲得しました。

日時 2024 年 7 月 13 日(土)13 時 30 分～16 時 10 分（13 時開場）
会場 みんなくインテリジェントホール（講堂）（定員 350 名）
参加費 要展示観覧券（一般 580 円）※イベント参加費は不要
解説 島村一平（本館 教授）
司会 信田敏宏（本館 教授）
※事前申込制（本人を含む 2 名まで）、先着順
※一般受付／7 月 10 日(水)まで



— 島村 一平（人類文明誌研究部 教授） —

4. 最新の研究紹介

[詳しくはこちら](#)

『月刊たくさんのふしぎ ウンム・アーザルのキッチン』（2024 年 6 月号）

菅瀬晶子(文)、平澤朋子(絵)

イスラエル国籍のアラブ人の存在は、パレスチナ・イスラエル紛争において見落とされがちですが、共存の鍵を握りうる存在です。ガザ侵攻に停戦の兆しが見えず、パレスチナ・イスラエル双方に過激なプロパガンダが飛び交う今、ひとりの女性の物語から、マイノリティとして暮らすことの苦悩と、その中にも存在する喜びについて知ってほしいです。

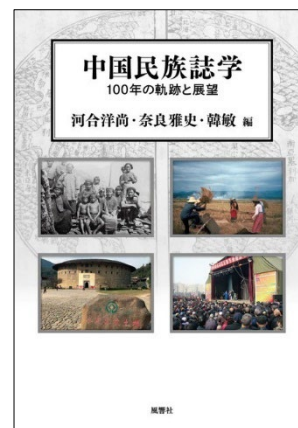


— 菅瀬 晶子（超域フィールド科学研究部 准教授） —

『中国民族誌学——100年の軌跡と展望』

河合洋尚、奈良雅史、韓敏（編）

本書は中国を対象とする人類学的研究（＝中国民族誌学）の「知られざる」理論的知見を中国研究者と非中国研究者の双方に示すと同時に、中国に関心を持つ一般読者にむけて人類学の知見を紹介することを試んでいます。



— 奈良 雅史（学術資源研究開発センター 准教授） —

『音盤を通してみる声の近代——日本、上海、朝鮮、台湾』

劉麟玉、福岡正太（編）

民博は、日本蓄音器商会（現日本コロムビア）が、20世紀前半に制作した外地向けレコードの原盤を所蔵しています。本書は、それらを主な資料とした共同研究の成果です。音盤に刻まれた東アジアの歴史に耳を傾けてみてください。



— 福岡 正太（人類文明誌研究部 教授、副館長） —

「楽園」で起きた暴動 ——ニューカレドニアの植民地主義

同タイトルの旅行記や映画の影響で「天国にいちばん近い島」などと表現されたり、観光パンフレット等でも「楽園」というキーワードを使って描かれたりすることが多いニューカレドニア。その「楽園」で、なぜ暴動が起きたのか、その直接的なきっかけはなにか、また、その背景には何があったのか。オセアニア地域を専門とする藤井真一助教が解説します。

— 藤井 真一（超域フィールド科学研究部 助教） —

※その他の配布資料 刊行物報告書（資料5）



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

お問い合わせ

国立民族学博物館 総務課 広報係

電話:06-6878-8560(直通) Fax:06-6875-0401 Mail:koho@minpaku.ac.jp